

太平洋戦争末期、過酷な戦火にさらされた沖縄。その10年前、沖縄には人々の平和な暮らしがありました。朝日新聞記者が1935年に撮影し、約80年を経て大阪本社で見つかった277コマのネガには、貴重な戦前の営みが写し取られていました。人工知能（AI）技術と住民の記憶に基づきカラー化した写真を含む約100点と、朝日新聞・沖縄タイムスの共同取材による証言映像などを通して「1935年の沖縄」が蘇ります。本展は2018年に日本新聞博物館（横浜市）で開催された企画写真展の巡回展。立命館大学国際平和ミュージアム所蔵の沖縄関連資料も展示します。

開館時間：09:30～16:30（入館は16:00まで）

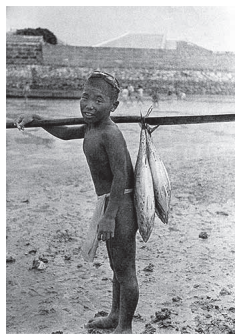
休館日：日曜日（4.14は臨時開館）、4.30、5.2、5.6

入館料(税込)：大人＝400円（350円）
 中高生＝300円（250円）
 小学生＝200円（150円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
 ※立命館で学ぶ人・働く人は無料
 ※常設展もあわせてご覧いただけます。
 ※KYOTOGRAPHIE共通パスポート提示で写真展のみ1回限り無料
 ※5/18は国際博物館の日ため無料



沖縄と書かれた印画紙の小箱に丸まったネガや撮影状況を記したメモ



糸満売りとりみられる少年



パーキ（竹かご）を二段重ねにして頭に載せた女性たち



那覇一糸満間の約9キロを走った「軌道馬車」



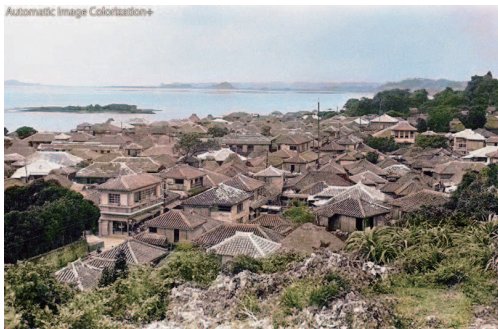
人力車



那覇市内にあった雑貨店の様子



東京大学大学院情報学環・渡邊英徳研究室（3月まで首都大学東京）によってカラー化された那覇の市場「那覇ウフマチ（大市）」（左）と糸満中心部（右）



※カラー化にあたっては、早稲田大学・石川博教授らの研究グループが開発した人工知能（AI）を使った自動色づけ技術などが活用されました

期間中の催し ▶▶▶

4.27（土）13:00～15:00

<ギャラリートーク>

よみがえる沖縄1935 ネガ発見秘話と記者たちの思い

朝日新聞大阪本社フォトアーカイブ：清水隆

朝日新聞西部本社報道センター：吉田拓史

沖縄タイムス社編集局社会部南部報道部：堀川幸太郎

コーディネーター：○○○○○（○○○○○○○○○○○○○○○○○○）

【会場】立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

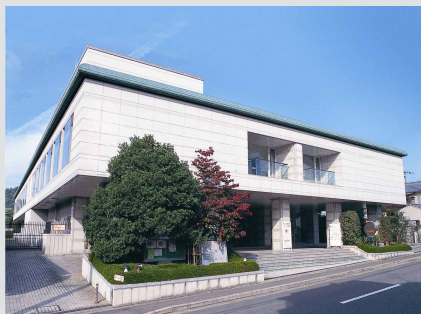
※申し込み不要、参加無料（本展、常設展へは見学資料費が必要です）

立命館大学国際平和ミュージアム
 所蔵コーナー

沖縄戦で一変した沖縄。戦前の沖縄の生活の中にも国家総動員体制の影響がひそみ、その後の沖縄と日本全体がたどった道について、儀間比呂志版画作品や沖縄から送られた軍事郵便などを通じて考えます。



版画 市場の女たち（儀間比呂志画 国際平和ミュージアム蔵）



立命館大学国際平和ミュージアム
 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
 TEL:075-465-8151 FAX:075-465-7899
 http://www.ritsume.ac.jp/mng/er/wp-museum



〈アクセス〉

JR・近鉄 京都駅/JR・地下鉄 二条駅/地下鉄 北大路駅/京阪電車 三条駅/阪急電車 烏丸駅/阪急電車 西院駅/地下鉄 西大路御池駅/JR円町駅より

●市バス12・15・50・51・55・59、JRバスにて「立命館大学前」下車、徒歩5分
 ●市バス204・205にて「わら天神前」下車、徒歩10分

※お車での来館はご遠慮ください



日本平和博物館会議
 ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE

京博連